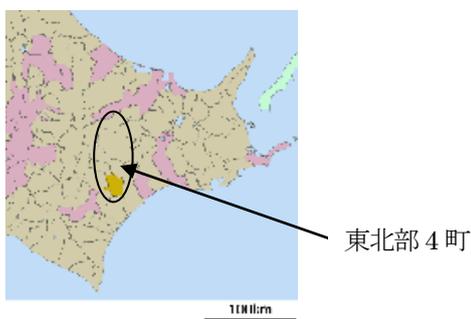


モデル事業名	地域の自然や伝統文化資源を活用した魅力ある地域作り事業
活動団体名	特定非営利活動法人自然体験学校
ホームページ	http://www.shizentaiken.com
所属/ 担当者名	特定非営利活動法人 自然体験学校 竹内 みか
連絡先	050-1415-0691、north_dream@netbeet.ne.jp
活動地域	北海道中川郡池田町・本別町、足寄郡足寄町・陸別町の十勝東北部4町 <small>いけだちよう ほんべつちよう あしよろちよう りくべつちよう とかちとうほくぶよんちよう</small>

● 活動地域の概要

- 活動地域は十勝の東北部に位置し、縦に並んだ四町の総面積は 2780.8 k m²。
東京都や神奈川県より広く、南に位置する池田町から北に位置する陸別町までは約 80 k m。
- 公共交通機関は J R 北海道が池田町を通っているが、他 3 町はふるさと銀河線が廃止になってからは国道を走る路線バスのみでの運行である。池田町から都市の札幌市までは約 250 キロ（東京ー長野約 220 キロ）ある。
- 4 町の総人口数を見てみると、1996 年と比べ 2008 年は約 16%（5,285 人）減少、20 年前の 1998 年からは、約 30%（10,937 人）も減少している。
- 特に 2006 年のふるさと銀河線が廃止になってから約 2 年で、鉄道沿線の 3 町の人口は本別町で 4.2%、足寄町で 4% 以上も減少し、陸別町においては 5.4% の減少、人口は 3,000 人を割り込んでいる。
- 高齢化率はきわめて高く、2008 年 3 月時点での 4 町平均は 60 歳以上が 40.1% を占める。そのうち 80 歳以上が 9.6% であり、既に池田町は 9.8%、陸別町は 11.1%、他 2 町もまもなく 10% になる。
少子化についてもここ数年進み、郡部の小学校の統廃合が進んでいる。



【位置図】北海道十勝地方の右記鉄道沿線 4 町



【ふるさと銀河線廃線後の荒廃したホーム】

● 活動地域の課題

対象地域である 4 町を貫き 100 年以上続いた国鉄「池北線」が、平成元年に第三セクター「ふるさと銀河線」へと代わり営業してきたが、地域の過疎化で乗降客が激減し、開業当初は約 90 万人の乗降客が、平成 16 年には約 45 万人と約半分となり、平成 18 年を以て廃線となった。この池北 4 町の動脈であった鉄道が廃線となったことにより、陸別町をはじめとした沿線町はますます地域が衰退、4 町の中ではすでに限界集落に達した地域も存在しており、今後増えていくものと思われる。

また、小中学校の統廃合も進み、若者の流出も増え、他地域に比べて少子高齢化が急激に進んでいる地域である。

● 活動の内容

(全体)

モデル事業終了後も、地域資源の発掘、プログラム化、プロモーションなど、地域での取り組みを継続している。

(直近1年間の進捗など)

・地域資源の体験メニュー作り

地域資源の発掘を継続し、4町の行政をはじめ地域の農家さんや林業の方などのご協力をいただき、新しい体験の実施検証を行いながらメニュー作りを進めてきた。

また、地域の新しい取り組みとして、農山漁村に宿泊して農業や酪農などの一次産業を体験する「民泊」も体験メニューの一つとして進めている。

地域の指導者にも体験実施時の参加を呼びかけ、経験を積んで今後の実施につなげるように指導者育成にも取り組んでいる。

・プロモーション活動

昨年作成した印刷物を活用して、道内の小中学校や道内外旅行代理店へプロモーションを行った結果、旅行代理店や学校の視察や問い合わせも増え、教育旅行の受け入れ(5校)を行った。

● 活動の成果

・地域資源の体験メニュー作り

地域資源の発掘を続ける中、新しい体験の取り組みとして、地域の農家さんでの農作業体験(豆の収穫、甜菜収穫)や、枝打ちなどの林業体験、炭焼き体験など実施検証を行い、メニュー作りを確実なものとした。

また、取り組み始めた「民泊」は新たな地域体験のひとつであり、地域の魅力を伝えるには有効なものであり、都市からの需要が非常に多い状況にある。活動を続ける中で受け入れ家庭も増えて、一度に200名の受け入れは可能となった。

受け入れ小学校 4校 / 中学校 1校 合計 5校

・プロモーション活動

昨年から引き続き取り組んできた結果、学校や旅行代理店からの問い合わせが多く、下見に来ていただく機会も増えた。

実際に小・中学校の教育旅行の受け入れを5校行うことができ、そのうち中学校の2泊3日の社会見学旅行では当方でコーディネートを行い、3町で体験・昼食・宿泊の実施となり、地域への経済効果も感じられた。

また民泊に関する問い合わせは非常に多く、民泊の整備を進め、体験と一緒にプロモーションすることで需要は大きかったと感じた。本年は民泊受け入れの予定が1校あったが、口蹄疫の関係で残念ながら中止となった。

・地域内での反響

実際に教育旅行の受け入れを行ったこと、民泊実施に向けて整備を進める中で、今まで興味のなかった方や受け入れを心配される方も少しずつ興味を持つようになってきていると感じる。急にというわけにはいかないが、地域内の受け入れに対する考え方も徐々に変わってきているのではないかと感じる。

地域の人々が、どのような体験ができるか、どのようにしたら安全に体験できるかを考えることが、地域資源を活用した「魅力あるプログラム作り」につながるのではないかと考えている。



枝打ち体験



ビート収穫作業

● 今後の課題及び展望

・課題

受け入れ体制の整備は、引き続き課題となっている。受け入れに関しての体験に必要な備品類の準備には苦勞している。事前の準備が必要であるが資金源がないために、周辺から集めて対応しているということもあり、受け入れ側の負担も大きい。

民泊に関しては、受け入れ家庭や農家で体験をさせることも多いので、受け入れ人数分の準備（汚れ防止のつなぎや長靴など）をする負担もある。簡易宿所の申請や整備なども費用がかかり、受け入れをためらうことも多い。受け入れ整備のための資金や整備方法が大きな課題である。

また、体験の受け入れや整備により、地域の方々の理解や興味が以前より高まっていることは感じているが、実際にかかわりのある方以外の地域住民への周知は十分ではなく、今後も1人でも多くの方にご理解をいただくこと＝「地域全体でお客様を迎える」ために、今後も課題として継続して取り組んでいくべきものである。

プロモーション活動に関しては、地域資源をメニュー化し、対外的に告知することの重要性を感じているが、継続するにはパンフレット作成にしても、プロモーションにしても資金が必要である。受け入れ数がまだ少ない中では、継続するための活動が制限されることも多く、これも大きな課題である。

人材育成に関しては継続して行う必要がある。地域の中により多くの指導者を育成し経験を積むことで、安全に対応できるため、各町それぞれで対応できるよう指導者養成を行っていきたい。

・展望

今後も魅力ある地域作りのために、民泊も含む体験の受け入れを進めていきたい。そのためには、対外的なニーズを情報収集するとともに、それに対応した地域資源を活用したプログラムを更に増やす（選択肢を広げる）、プロモーション活動の継続、指導者の育成、多くの地域の方が参加していただけるよう周知活動を継続していきたい。

地域の方にとっては魅力でないことも、外部の目からは「魅力的」であることを伝え、地域の方と一緒に受け入れ体制を作って（メニュー作り）いき、地域の魅力作りにつなげる。

交流人口が増えること、都心からの人々や子ども達との触れ合いによって、高齢者や地域の方が元気になること、地域に経済的効果が生まれる体験の受け入れを今後も目指している。